

ハマス、異例の越境攻撃

戦力差歴然でも存在誇示

【イスタンブール時事】パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスは7日、戦闘員がイスラエル領内に襲撃を仕掛けるという前例のない大規模作戦に踏み切った。ガザ境界に近いイスラエルの集落で市民や兵士を殺害したり、連れ去ったりして戦果を誇示したが、反撃を開始したイスラエル軍との戦闘で軍事的に勝利を収めるのは、戦力に圧倒的な差があることから不可能と言える。組織の存在を誇示することに固執した無謀な作戦と映る。

(1面参照)

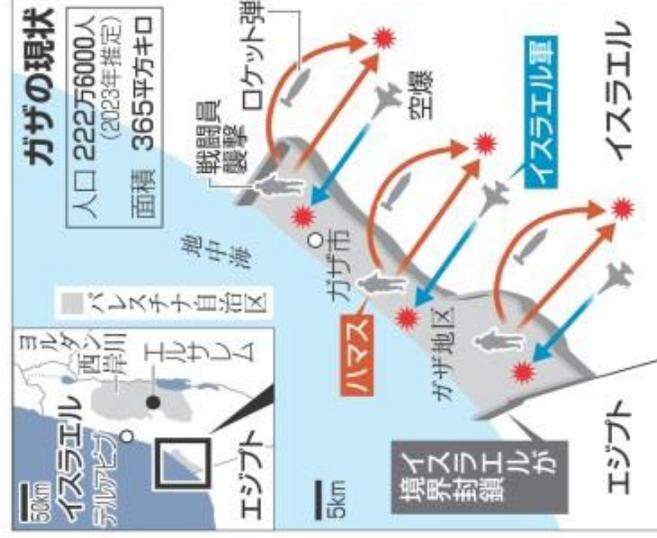
SNS上には作戦開始直後から、拘束されたイスラエルの兵士や民間人とみられる写真や動画が次々と投稿された。ハマスによる攻撃成功」のアピールに、ガザ住民が「アラ・アクバル(神は偉大なり)」と声を張り上げて沸き立つ様子も伝えられている。

ただ、ガザ各地は作戦開

始後、程なくイスラエル軍による激しい空爆にさらされた。ガザがイスラエルに依存する電力の供給も遮断された。長年イスラエルの封鎖下にあるガザに空爆に対抗できる兵器はなく、正確に狙いを定められないロケット弾をイスラエル領内に撃ち込み続けるしか対抗策がないのが実情だ。

ガザは人口が密集し、ハマス関連施設が攻撃を受ければ民間人が巻き添えになるのは不可避。今回のハマスの攻撃ではイスラエル側

に異例の被害が出ているだけに、今後の報復も相応の規模になると見込まれる。イスラエルはハマスがガザを掌握した2007年以



降、ガザでの軍事作戦を繰り返している。ハマスはこれまで、攻撃を受けた住民の間で高まるイスラエルへの敵意を、組織の求心力維持に利用してきた。

イスラエルはこれまで、国際社会が支持するパレス

チナ自治政府をけん制する意味合いもあり、ハマスの存在を事実上容認してきた。しかし、7日夜の治安闘争では「ハマスの軍事、統治能力の破壊」を目指すことを決め、組織そのものの壊滅に向けて動きだした。

サウジとの急接近に焦り

〈解説〉イスラム組織ハマスがイスラエルへの大規模攻撃に踏み切った背景には、「アラブの盟主」サウジアラビアとイスラエルの急接近への焦りがある。バイデン米政権の仲介でイスラエルとの国交正常化交渉を進めるサウジはパレスチナ問題での妥協も辞さない構え。イスラエルに一矢を報いることで存在感を誇示し、交渉に「待った」をかける狙いがある。

イスラエルは近年、敵国イランへの警戒感を共有するアラブ諸国と接近し、2

020年にアラブ首長国連邦(UAE)やバーレーンなどと国交を正常化した。その際も「アラブの大義」とされたパレスチナ問題の解決は棚上げされ、パレスチナは蚊帳の外に置かれた。サウジがイスラエルと正常化すればパレスチナは最大の後ろ盾を失うことになる。ただサウジは交渉で米サウジの軍事同盟などを優先。ハマスは交渉に参加すらできず、命運を握られた状態だ。

ハマスの指導者ハニヤ氏は「国交正常化はパレスチナ問題を解決しないし、イスラエルがアラブ諸国を防衛するわけでもない」とけん制した。今回の戦闘で多くのアラブ人がイスラエル

よりハマスを支持し「サウジは妥協できなくなった」との見方が広がる。

ガザ地区は経済的困窮が深まり、反ハマスの民衆テロも散発的に発生。軍事作戦を成功させることで人気回復も狙ったとみられる。

(エルサレム共同)

NIEワークシートのこたえ（2023年10月11日公開）

◆ワークシート「イスラエルとハマス大規模戦闘(社会)」 2023.10.9付 朝刊 国際総合面 解答例

- 1 アラブ人
- 2 ユダヤ教 キリスト教 イスラム教(順不同)
- 3 イスラエルは近年、敵国イランへの警戒感を共有するアラブ諸国と接近し、2020年にアラブ首長国連邦、バーレーンなどと国境を正常化した。現在はアメリカの仲介でサウジアラビアとの国境正常化交渉を進めていた。ハマスはサウジの後ろ盾を失うことを恐れ、イスラエルとサウジの国境正常化を阻止するために戦闘を行った。(147字 同意可)